

令和4年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知市教育委員会

説明資料

資料1 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果概要資料

資料2 不登校対策について
高知市の現状と取組について

令和4年度

全国学力・学習状況調査結果概要資料

- 1 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 H19～R4 全国学力・学習状況調査結果における高知市平均正答率と全国平均正答率との
差の推移・・ 2
- 3 小学校第6学年における教科別調査結果の比較・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 中学校第3学年における教科別調査結果の比較・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 5 各教科における高知市の学力の状況（小学校第6学年）・・・・・・・・ 5. 6
- 6 各教科における高知市の学力の状況（中学校第3学年）・・・・・・・・ 7. 8
 - 問題別調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～14
 - 数学における取組の成果等の検証及び分析（課題とされた問題を経年で見た状況）①② 15. 16
 - 全国学力・学習状況調査 正答数分布の状況と四層分析の経年での比較
（高知市と全国）【%】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17. 18
 - 全国学力・学習状況調査結果～高知市と高知市外との正答率の差～・・・・・・・・ 19
 - ICTを活用した学習状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20. 21



令和4年8月31日

高知市教育委員会

1 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和4年4月19日(火)

(3) 調査内容

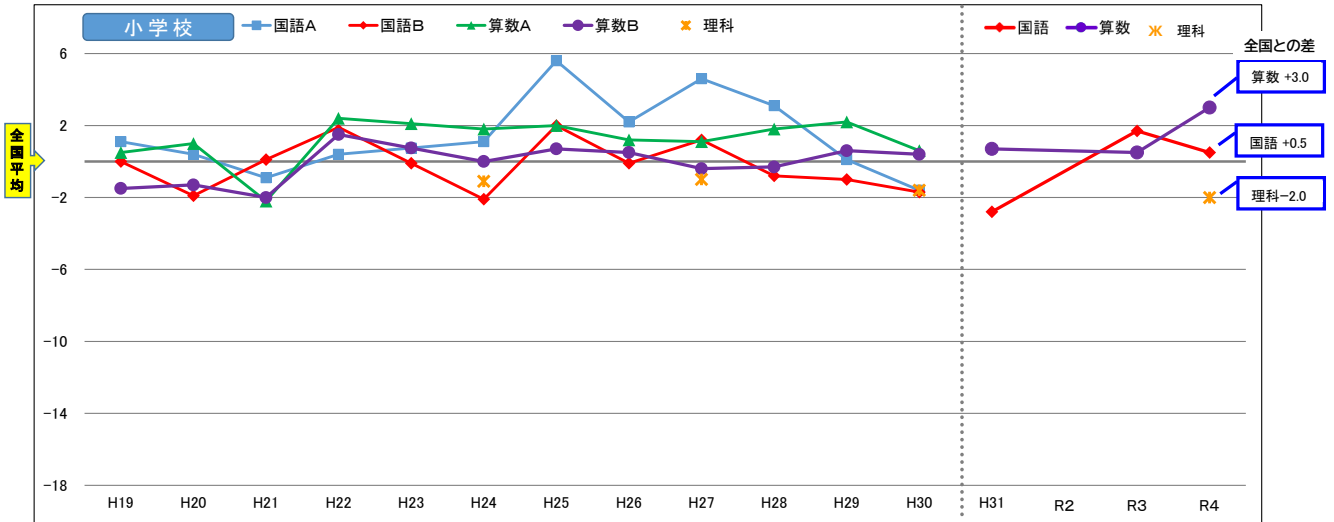
- ◇ 小学校第6学年(義務教育学校前期課程を含む)、中学校第3学年(義務教育学校後期課程)の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を出題
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

(4) 高知市立学校の参加状況

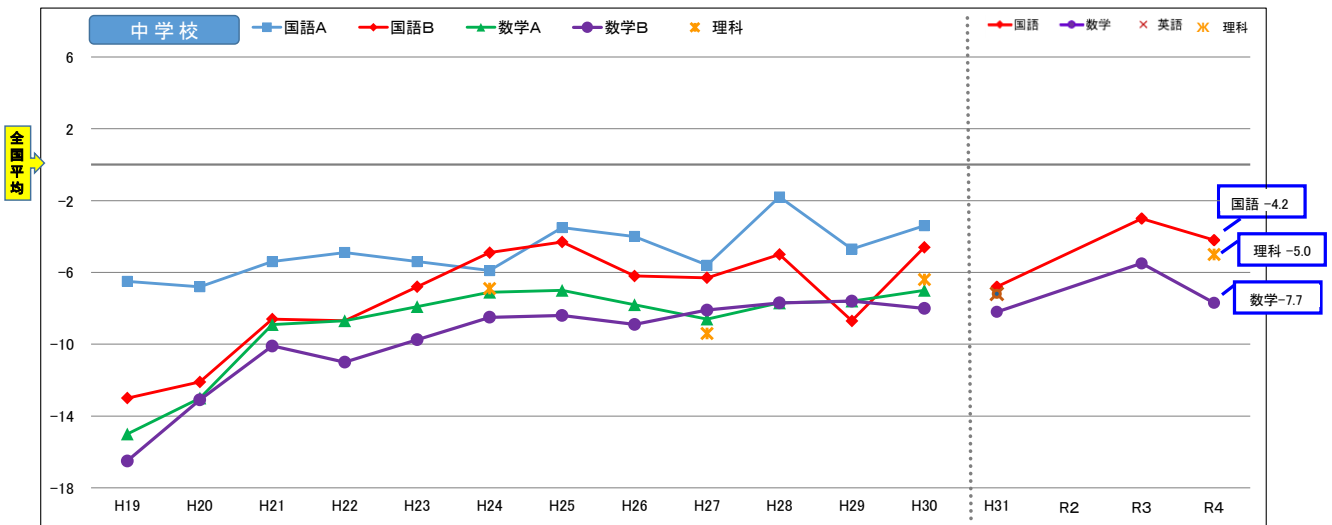
- ◇ 参加学校数
 - 小・義務教育学校(前期課程) 41校
 - 中・義務教育学校(後期課程) 19校
 - 小・中・義務教育学校合計学校数 58校

2 H19～R4全国学力・学習状況調査における高知市平均正答率と全国平均正答率との差の推移

・小学校においては、国語、算数は全国平均を上回っている。特に算数においては、全国平均正答率を3.0ポイント上回っている。
 ・中学校においては、全教科で全国平均を下回っている。理科では、H30調査における全国平均正答率との差を1.4ポイント縮めることができています。



		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
国語	A	1.1	0.4	-0.9	0.4		1.1	5.6	2.2	4.6	3.1	0.1	-1.6	-2.8		1.7	0.5
	B	0.0	-1.9	0.1	1.9		-2.1	2.0	-0.1	1.2	-0.8	-1.0	-1.7				
算数	A	0.5	1.0	-2.2	2.4		1.8	2.0	1.2	1.1	1.8	2.2	0.6			0.5	3.0
	B	-1.5	-1.3	-2.0	1.5		0.0	0.7	0.5	-0.4	-0.3	0.6	0.4	0.7			
理科							-1.1			-1.0		-1.6					-2.0



		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
国語	A	-6.5	-6.8	-5.4	-4.9		-5.9	-3.5	-4.0	-5.6	-1.8	-4.7	-3.4	-6.8		-3.0	-4.2
	B	-13.0	-12.1	-8.6	-8.7		-4.9	-4.3	-6.2	-6.3	-5.0	-8.7	-4.6				
数学	A	-15.0	-13.0	-8.9	-8.7		-7.1	-7.0	-7.8	-8.6	-7.7	-7.6	-7.0	-8.2		-5.5	-7.7
	B	-16.5	-13.1	-10.1	-11.0		-8.5	-8.4	-8.9	-8.1	-7.7	-7.6	-8.0				
理科							-6.9			-9.4		-6.4					-5.0
英語														-7.2			

3 小学校第6学年における教科別調査結果の比較

【令和4年度の学力の状況】

- ・国語の平均正答率における高知市と全国との差は +0.5ポイントであり、令和3年度の +1.7ポイントから 1.2ポイント下回った。
- ・算数の平均正答率における高知市と全国との差は +3.0ポイントであり、令和3年度の +0.5ポイントより 2.5ポイント上回った。

小学校(国語・算数)									
	国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	算数平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
(A・B)	令和4年度	66.1	66.3	65.6	0.5	66.2	65.7	63.2	3.0
	令和3年度	66.4	66.9	64.7	1.7	70.7	70.8	70.2	0.5
	平成31年度	61.0	64.0	63.8	-2.8	67.3	68.3	66.6	0.7
	国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	算数平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
A 問題 (知識)	平成30年度	69.1	70.0	70.7	-1.6	64.1	64.8	63.5	0.6
	平成29年度	74.9	74.9	74.8	0.1	80.8	81.6	78.6	2.2
	平成28年度	76.0	77.2	72.9	3.1	79.4	80.4	77.6	1.8
	平成27年度	74.6	73.4	70.0	4.6	76.3	77.0	75.2	1.1
	平成26年度	75.1	74.4	72.9	2.2	79.3	79.2	78.1	1.2
	平成25年度	68.3	65.3	62.7	5.6	79.2	78.8	77.2	2.0
	平成24年度	82.7	82.1 (81.5~82.7)	81.6 (81.4~81.7)	1.1	75.1	74.7 (73.9~75.6)	73.3 (73.1~73.5)	1.8
	平成23年度	81.4	81.0			82.4	82.3		
	平成22年度	83.7	82.8 (82.2~83.5)	83.3 (83.2~83.5)	0.4	76.6	75.3 (74.3~76.3)	74.2 (74.0~74.4)	2.4
	平成21年度	69.0	68.5	69.9	-0.9	76.5	76.4	78.7	-2.2
	平成20年度	65.8	65.0	65.4	0.4	73.2	72.6	72.2	1.0
	平成19年度	82.8	81.7	81.7	1.1	82.6	81.6	82.1	0.5
B 問題 (活用)	平成30年度	53.0	54.9	54.7	-1.7	51.9	52.7	51.5	0.4
	平成29年度	56.5	56.8	57.5	-1.0	46.5	46.2	45.9	0.6
	平成28年度	57.0	57.7	57.8	-0.8	46.9	47.3	47.2	-0.3
	平成27年度	66.6	67.0	65.4	1.2	44.6	44.6	45.0	-0.4
	平成26年度	55.4	55.0	55.5	-0.1	58.7	57.9	58.2	0.5
	平成25年度	51.4	49.8	49.4	2.0	59.1	57.9	58.4	0.7
	平成24年度	53.5	53.4 (52.4~54.3)	55.6 (55.4~55.8)	-2.1	58.9	58.1 (57.1~59.1)	58.9 (58.7~59.1)	0.0
	平成23年度	46.6	44.3			47.4	46.2		
	平成22年度	79.7	78.1 (77.2~79.0)	77.8 (77.7~78.0)	1.9	50.8	48.2 (47.2~49.2)	49.3 (49.1~49.5)	1.5
	平成21年度	50.6	49.5	50.5	0.1	52.8	52.1	54.8	-2.0
	平成20年度	48.6	47.7	50.5	-1.9	50.3	49.3	51.6	-1.3
	平成19年度	62.0	60.0	62.0	0.0	62.1	60.7	63.6	-1.5

小学校(理科)

	小学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
	令和4年度	61.3	63.0	63.3	-2.0
	平成30年度	58.7	59.9	60.3	-1.6
	平成27年度	59.8	60.3	60.8	-1.0
	平成24年度	59.8	59.6 (58.8~60.4)	60.9 (60.8~61.1)	-1.1

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。
 ()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。
 ※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

4 中学校第3学年における教科別調査結果の比較

【令和4年度の学力の状況】

- ・国語の平均正答率における高知市と全国との差は -4.2ポイントであり、令和3年度の -3.0ポイントから 1.2ポイント下回った。
- ・数学の平均正答率における高知市と全国との差は -7.7ポイントであり、令和3年度の -5.5ポイントから 2.2ポイント下回った。

中学校(国語・数学)									
	国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	数学平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
(A・B)	令和4年度	64.8	67.1	69.0	-4.2	43.7	46.4	51.4	-7.7
	令和3年度	61.6	63.5	64.6	-3.0	51.7	54.6	57.2	-5.5
	平成31年度	66.0	70.8	72.8	-6.8	51.6	58.1	59.8	-8.2
	国語平均正答率(%)			高知市と 全国との差	数学平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
A 問題 (知識)	平成30年度	72.7	75.3	76.1	-3.4	59.1	64.1	66.1	-7.0
	平成29年度	72.7	75.8	77.4	-4.7	57.0	61.9	64.6	-7.6
	平成28年度	73.8	75.4	75.6	-1.8	54.5	58.5	62.2	-7.7
	平成27年度	70.2	73.3	75.8	-5.6	55.8	59.9	64.4	-8.6
	平成26年度	75.4	77.2	79.4	-4.0	59.6	62.7	67.4	-7.8
	平成25年度	72.9	74.3	76.4	-3.5	56.7	59.3	63.7	-7.0
	平成24年度	69.2	72.5 (71.8~73.1)	75.1 (75.0~75.2)	-5.9	55.0	58.3 (57.4~59.2)	62.1 (62.0~62.3)	-7.1
	平成23年度	76.9	78.5			52.8	54.3		
	平成22年度	70.2	72.6 (72.0~73.3)	75.1 (75.0~75.2)	-4.9	55.9	59.5 (58.3~60.7)	64.6 (64.4~64.8)	-8.7
	平成21年度	71.6	74.2	77.0	-5.4	53.8	56.5	62.7	-8.9
平成20年度	66.8	70.0	73.6	-6.8	50.1	54.5	63.1	-13.0	
平成19年度	75.1	78.1	81.6	-6.5	56.9	62.8	71.9	-15.0	
B 問題 (活用)	平成30年度	56.6	59.7	61.2	-4.6	38.9	43.2	46.9	-8.0
	平成29年度	63.5	68.9	72.2	-8.7	40.5	44.7	48.1	-7.6
	平成28年度	61.5	65.2	66.5	-5.0	36.4	40.1	44.1	-7.7
	平成27年度	59.5	62.9	65.8	-6.3	33.5	36.2	41.6	-8.1
	平成26年度	44.8	47.7	51.0	-6.2	50.9	53.6	59.8	-8.9
	平成25年度	63.1	64.8	67.4	-4.3	33.1	35.4	41.5	-8.4
	平成24年度	58.4	61.6 (60.9~62.3)	63.3 (63.2~63.4)	-4.9	40.8	45.4 (44.3~46.6)	49.3 (49.2~49.5)	-8.5
	平成23年度	59.1	61.0			43.3	45.2		
	平成22年度	56.6	61.0 (60.0~62.1)	65.3 (65.1~65.5)	-8.7	32.3	36.6 (35.4~37.0)	43.3 (43.1~43.5)	-11.0
	平成21年度	65.9	69.8	74.5	-8.6	46.8	49.7	56.9	-10.1
平成20年度	48.7	54.7	60.8	-12.1	36.0	41.5	49.2	-13.2	
平成19年度	59.0	64.0	72.0	-13.0	44.1	50.6	60.6	-16.5	

中学校(理科)

	中学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
	令和4年度	44.3	46.5	49.3	-5.0
	平成30年度	59.7	63.6	66.1	-6.4
	平成27年度	43.6	47.3	53.0	-9.4
	平成24年度	44.1	47.3 (46.5~48.0)	51.0 (50.9~51.1)	-6.9

中学校(英語)

	中学校平均正答率(%)			高知市と 全国との差	
	高知市(公立)	高知県(公立)	全国(公立)		
	平成31年度	48.8	52.0	56.0	-7.2

※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率の推計値で示している。
 ()の数値は平均正答率の95%信頼区間を示している。
 ※平成23年度は全国学力・学習状況調査問題を活用した希望利用調査の結果を示している。

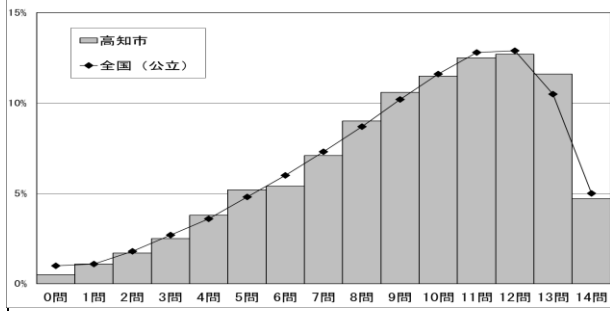
5 各教科における高知市の学力の状況（小学校第6学年）

- ・「正答数分布の状況」においては、全国と比べ算数の下位層が少なく、上位層が多くなっている。
- ・「問題形式」においては、国語と理科で「記述式」問題の正答率が低く、課題が見られる。

〔小学校国語〕

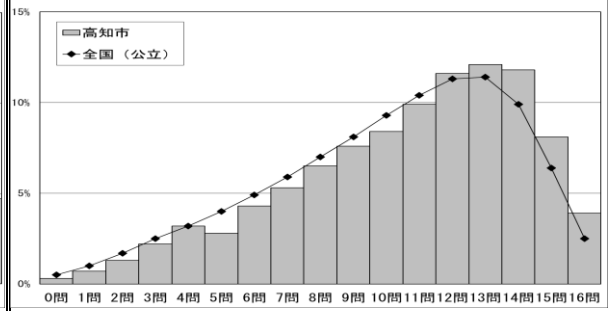
正答数分布の状況

国語	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	9.3/14	66.1	10.0	3.2
全国	9.2/14	65.6	10.0	3.3

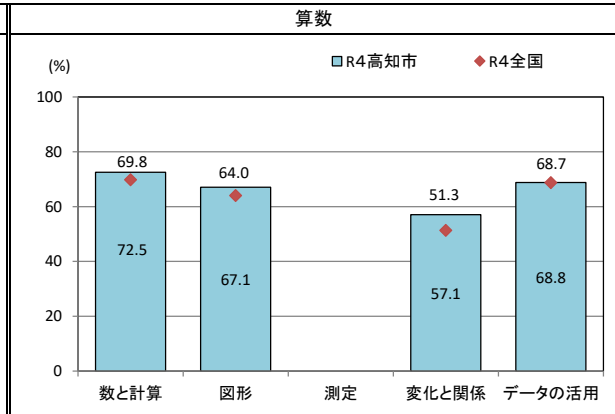
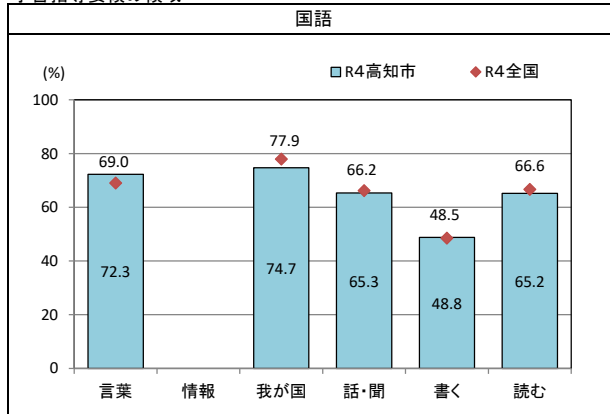


〔小学校算数〕

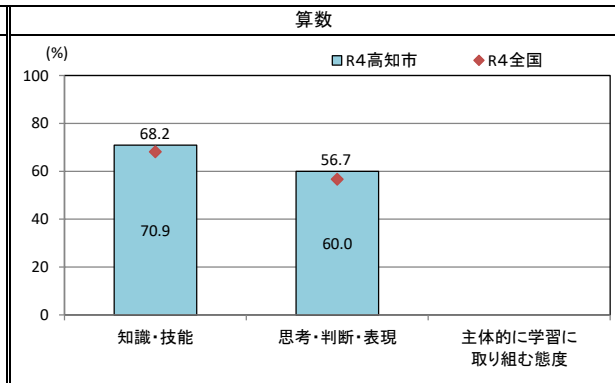
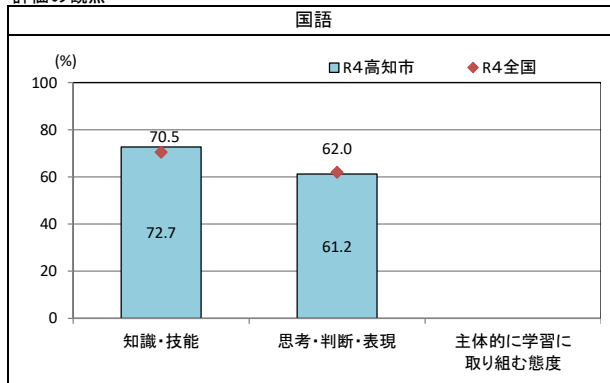
算数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	10.6/16	66.2	11.0	3.6
全国	10.1/16	63.2	11.0	3.6



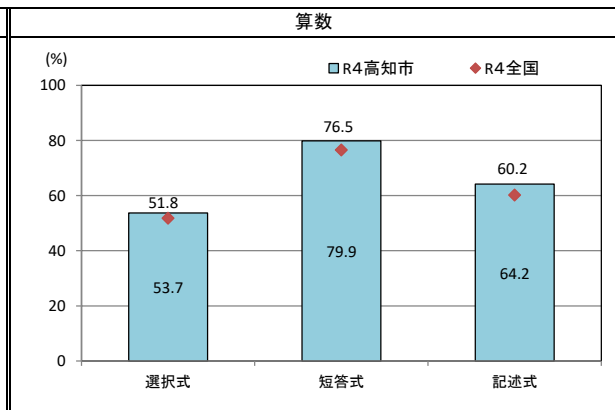
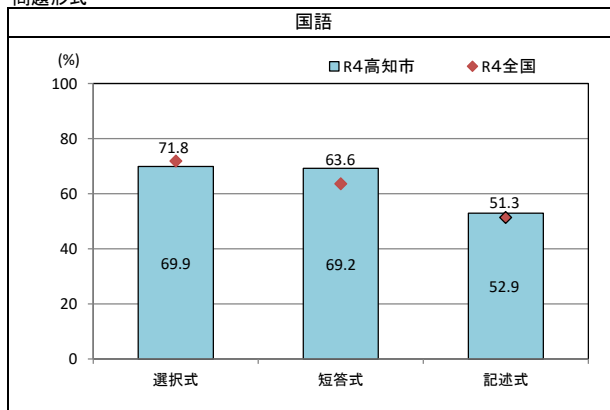
学習指導要領の領域



評価の観点



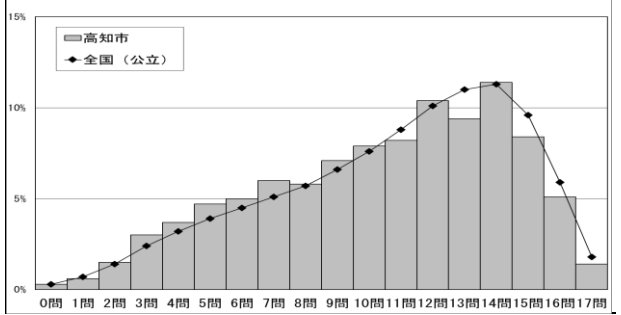
問題形式



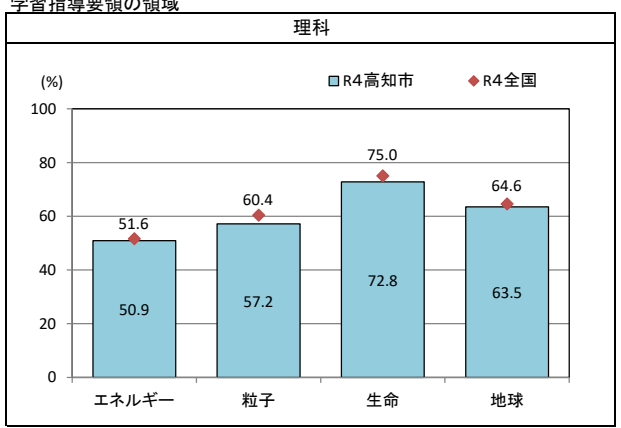
5 各教科における高知市の学力の状況（小学校第6学年）

【小学校理科】
正答数分布の状況

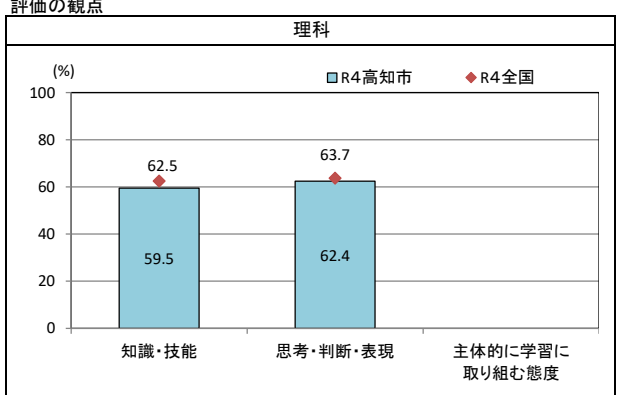
理科	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	10.4/17	61.3	11.0	3.9
全国	10.8/17	63.3	11.0	3.8



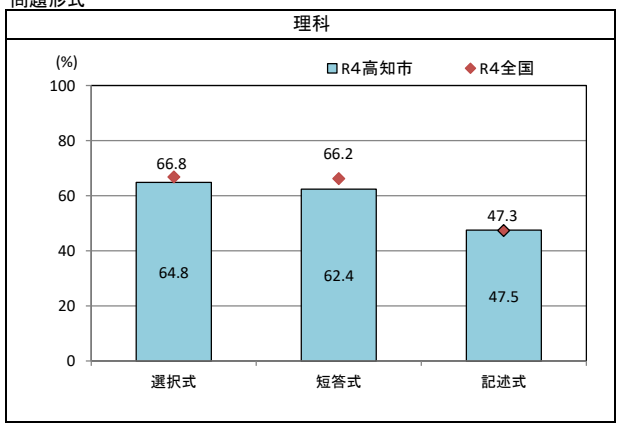
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

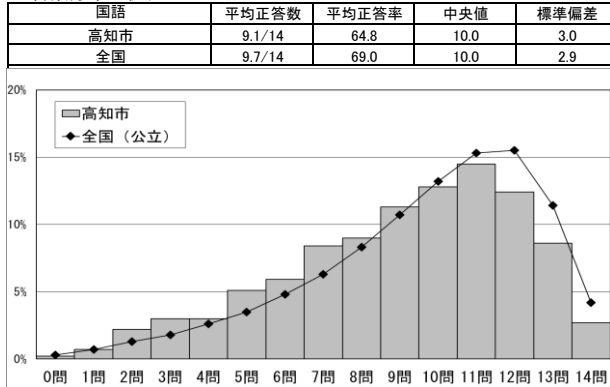


6 各教科における高知市の学力の状況（中学校第3学年）

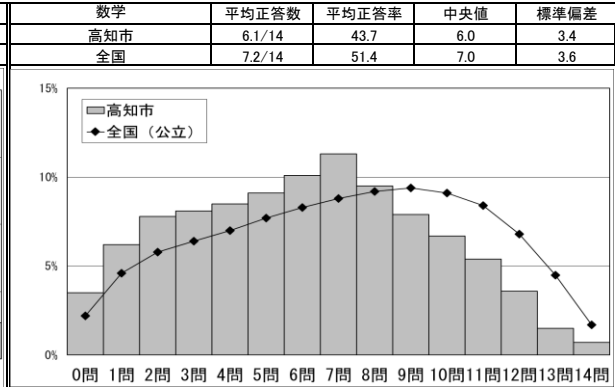
- ・「正答数分布の状況」においては、国語、数学、理科とも下位層が全国と比べて多くなっている。
- ・「問題形式」においては、国語と数学で「短答式」問題の正答率に全国との差があり、課題が見られる。

〔中学校国語〕

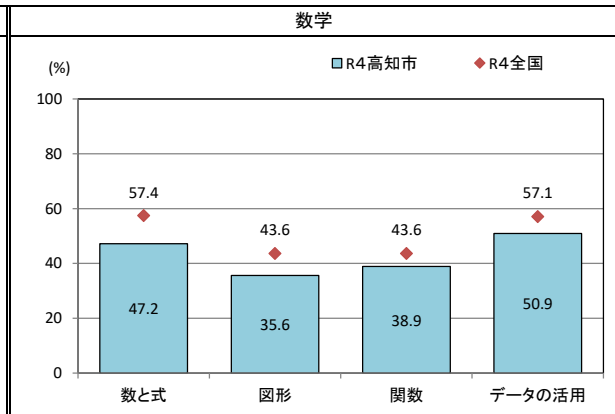
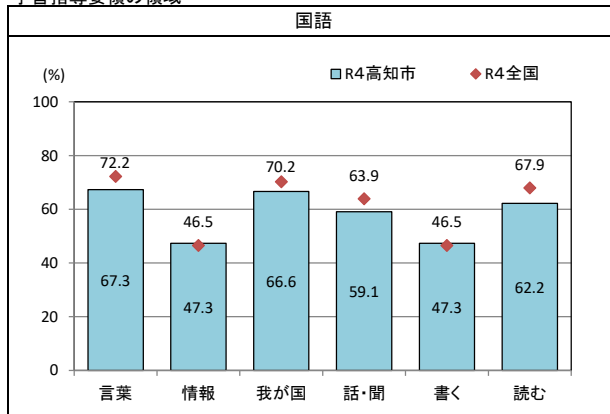
正答数分布の状況



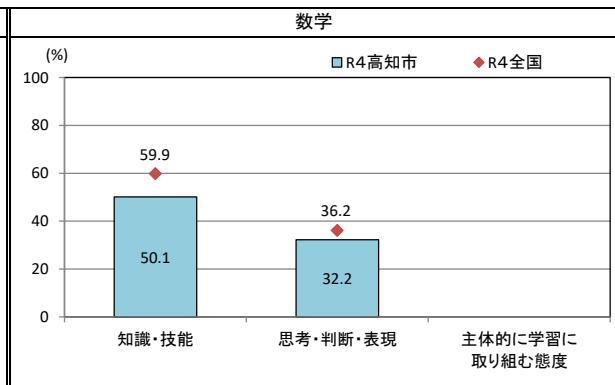
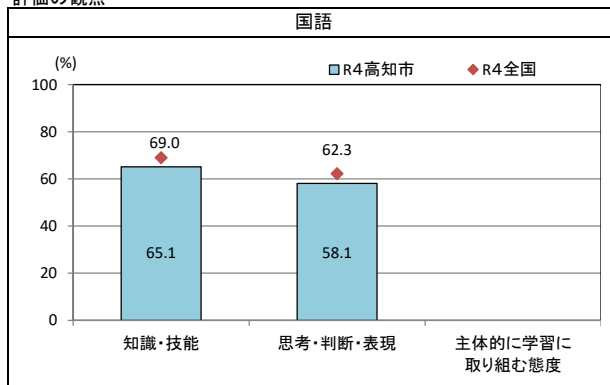
〔中学校数学〕



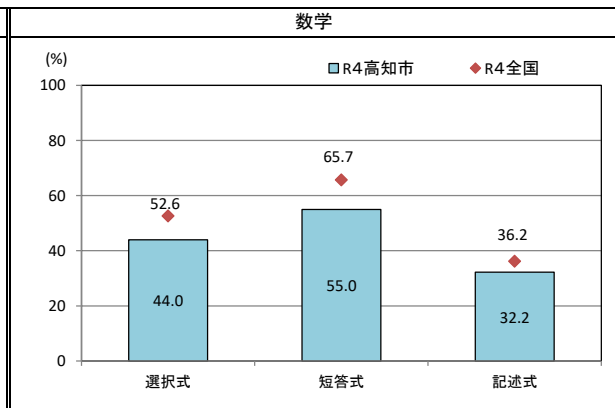
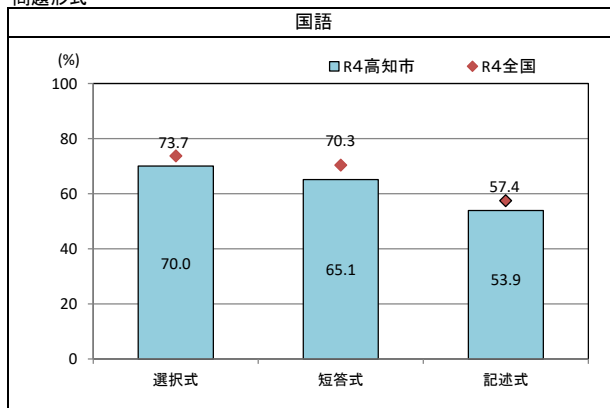
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

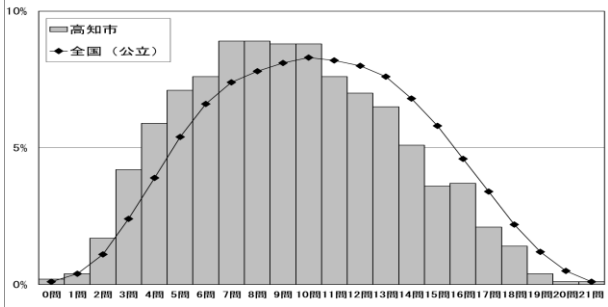


6 各教科における高知市の学力の状況（中学校第3学年）

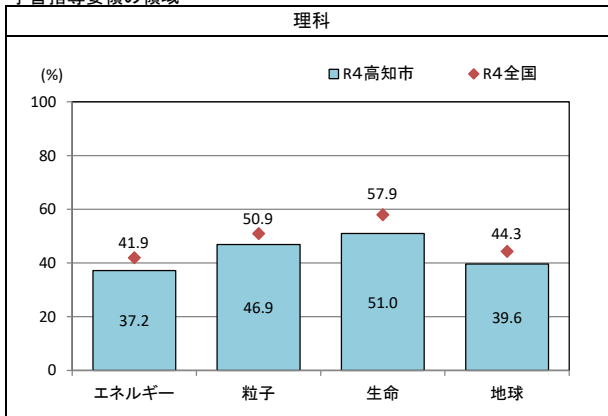
〔中学校理科〕

正答数分布の状況

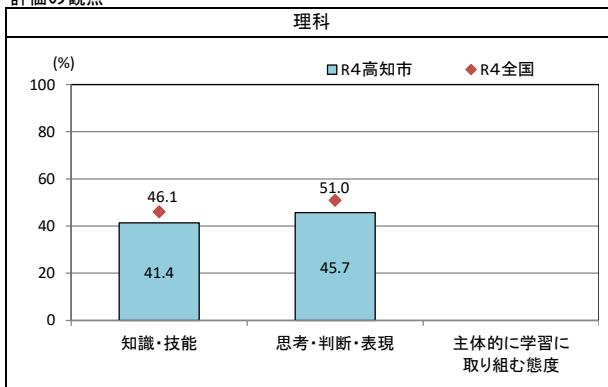
理科	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知市	9.3/21	44.3	9.0	4.0
全国	10.4/21	49.3	10.0	4.1



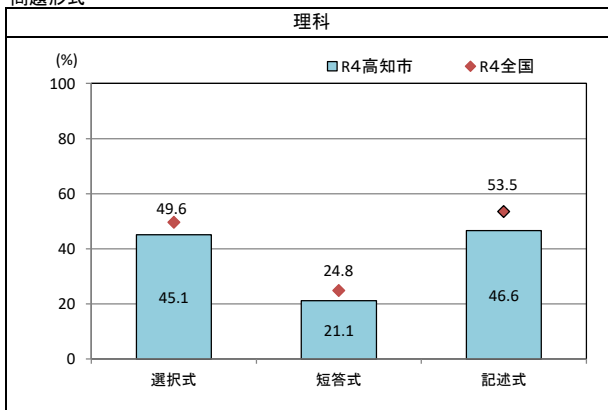
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式



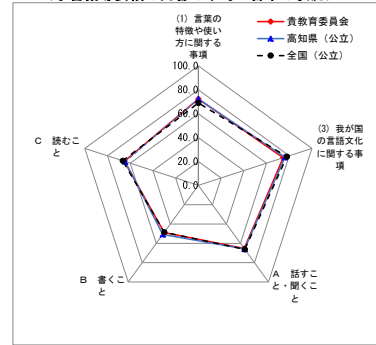
以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	
全体						
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	5	72.3	72.3	69.0
		(2) 情報の扱い方に關する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	1	74.7	76.2	77.9
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	65.3	65.8	66.2
		B 書くこと	2	48.8	50.7	48.5
		C 読むこと	4	65.2	64.5	66.6
		知識・技能	6	72.7	72.9	70.5
評価の観点	思考・判断・表現	8	61.2	61.4	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	69.9	70.0	71.8	
	短答式	3	69.2	69.2	63.6	
	記述式	3	52.9	53.8	51.3	

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%) 全国との差		
			知識及び技能		思考力・判断力・表現力等					貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)			
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと										C 読むこと	
1-1	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5-6イ					○	○			84.3	84.7	85.5	0.5	0.3	0.9	-1.2
1-2	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5-6ア					○	○			69.9	69.2	68.8	0.6	0.3	1.0	1.1
1-3	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	3-4エ					○	○			82.3	82.8	84.7	0.6	0.4	1.0	-2.4
1-4	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□□□□でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	5-6オ					○	○			48.4	48.7	47.7	2.3	2.3	3.0	0.7
2-1(1)	『ぼく』の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える					3-4イ	○	○			68.2	66.3	68.4	0.6	0.3	1.0	-0.2
2-1(2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える					5-6イ	○	○			68.5	66.8	70.6	1.1	0.7	1.6	-2.1
2-2	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の□□□□に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する					5-6エ	○	○			68.6	69.3	68.3	9.6	9.1	12.2	0.3
2-3	【山村さんの文章】の□□□□に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える					5-6エ	○	○			55.6	55.8	59.2	2.3	1.8	3.2	-3.6
3-1	【文章2】の□□□□の部分で、どのように気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を捉える					5-6オ	○	○			56.1	58.1	59.2	1.4	1.0	2.5	-3.1
3-2	【話し合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける					5-6カ	○	○			41.6	43.3	37.7	10.6	9.9	14.5	3.9
3-3ア	【文章2】の中の□□□□部を、漢字を使って書き直す(ろくが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5-6エ					○	○			71.3	71.0	65.2	4.9	4.3	8.1	6.1
3-3イ	【文章2】の中の□□□□部を、漢字を使って書き直す(ほんせい)		5-6エ					○	○			64.8	65.9	58.7	5.8	5.0	10.2	6.1
3-3ウ	【文章2】の中の□□□□部を、漢字を使って書き直す(したしむ)		5-6エ					○	○			71.3	70.6	67.1	9.0	8.7	14.7	4.2
3-4	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く					3-4エ(イ)	○	○			74.7	76.2	77.9	3.6	2.5	5.9	-3.2

□□□□ 特に成果があった問題
□□□□ 特に課題があった問題

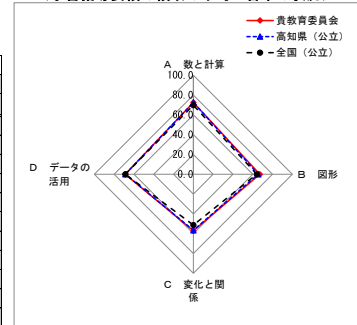
以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)
全体		16	66.2	65.7	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	72.5	72.5	69.8
	B 図形	4	67.1	65.6	64.0
	C 測定	0			
	D データの活用	4	57.1	56.6	51.3
	変化と関係	3	68.8	68.7	68.7
評価の観点	知識・技能	9	70.9	70.4	68.2
	思考・判断・表現	7	60.0	59.6	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	53.7	52.9	51.8
	短答式	6	79.9	79.8	76.5
	記述式	4	64.2	63.7	60.2

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

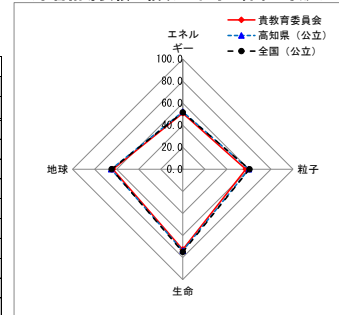


問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%) 全国との差
			A 数と計算	B 図形	C 測定 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) 7(7)					○			○	92.9	92.5	92.4	0.2	0.1	0.3	0.5
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) 7(4)					○			○	74.0	74.8	72.2	1.4	1.3	3.0	1.8
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(2) 7(4)					○			○	79.5	80.4	76.0	3.4	3.1	5.2	3.5
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を選択できる	4(2) 7(4)					○	○			39.7	38.2	34.8	0.4	0.3	0.9	4.9
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる			5(3) 7(4)			○			○	78.3	79.7	71.1	2.0	1.9	3.9	7.2
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる			5(3) 7(4)			○			○	69.4	68.6	64.6	1.8	1.8	3.3	4.8
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している			5(3) 7(4)			○			○	25.8	23.7	21.4	0.6	0.5	1.1	4.4
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる			5(1) 7(4)			○			○	54.9	54.2	48.0	3.5	3.5	5.5	6.9
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(6) 7(7)			3(1) 7(7)		○			○	79.4	78.8	75.3	1.6	1.4	2.1	4.1
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは違えるように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータに基づき、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる			3(1) 7(4)			○	○			62.2	62.0	63.9	1.0	0.7	1.6	-1.7
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる			5(1) 7(4)			○			○	64.9	65.5	66.8	1.7	1.4	2.2	-1.9
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) 7(7)					○			○	69.1	70.2	67.7	6.5	5.8	8.6	1.4
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) 7(7)					○			○	53.1	50.0	48.8	2.5	2.1	3.8	4.3
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	2(1) 7(4)					○			○	85.4	84.4	83.2	3.1	2.8	4.7	2.2
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	4(1) 7(4)					○			○	68.0	66.0	66.5	2.8	2.4	4.6	1.5
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4(1) 7(4)					○	○			61.7	61.9	57.6	3.2	2.7	5.1	4.1

以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	
全体			17	61.3	63.0	63.3
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	50.9	52.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	57.2	59.9	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	72.8	73.9	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	63.5	65.0	64.6
評価の観点	知識・技能	6	59.5	62.0	62.5	
	思考・判断・表現	11	62.4	63.5	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	64.8	65.9	66.8	
	短答式	3	62.4	66.1	66.2	
	記述式	3	47.5	49.3	47.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する可能性があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%) 全国との差
			A区分	B区分			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域 「生命」を柱とする領域 「地球」を柱とする領域			知識・判断・表現	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県(公立)	
1(1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		3B (17/41)	○	○	91.9	92.1	92.9	0.1	0.1	0.2	-1.0
1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3B (17/41)	○	○	66.1	67.9	67.5	4.2	3.9	5.0	-1.4
1(3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している		3B (17/41)	○	○	71.2	72.6	73.1	0.2	0.1	0.3	-1.9
1(4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (17/41)	○	○	72.4	73.4	76.1	0.4	0.3	0.7	-3.7
1(5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		3B (17/41)	○	○	62.5	63.3	65.5	1.0	1.0	1.4	-3.0
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している		5A (17/9)	○	○	58.4	66.4	67.8	7.3	6.0	9.8	-9.4
2(2)	水50mlをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている		5A (17/9)	○	○	68.3	70.8	70.0	0.6	0.5	0.6	-1.7
2(3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見いだし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる		4B (17/9)	○	○	60.4	60.4	62.8	0.8	0.5	1.0	-2.4
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		4B (17/9)	○	○	37.5	38.8	39.3	6.9	6.3	8.7	-1.8
3(1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している		3A (17/9)	○	○	26.0	27.4	27.8	0.4	0.2	0.6	-1.8
3(2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報を取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している		3A (17/4)	○	○	71.5	71.6	74.4	1.0	0.8	1.3	-2.9
3(3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く		3A (17/4)	○	○	67.3	68.6	68.9	3.4	3.3	5.1	-1.6
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる		3A (17/4)	○	○	38.9	41.0	35.1	8.4	7.8	11.2	3.8
4(1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		4B (17/9)	○	○	80.7	81.3	82.3	1.0	0.7	1.0	-1.6
4(2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる		4B (17/9)	○	○	63.7	66.1	64.5	1.2	0.9	1.3	-0.8
4(3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したもののなかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる		4B (17/9)	○	○	44.5	45.6	45.5	4.9	4.5	6.5	-1.0
4(4)	鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化しているのかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している		4B (17/9)	○	○	61.4	63.4	62.0	4.4	4.0	6.2	-0.6

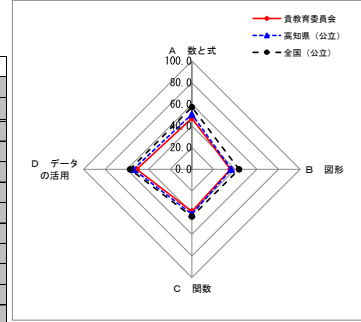
※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)
全体		14	43.7	46.4	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	47.2	50.8	57.4
	B 図形	3	35.6	36.5	43.6
	C 関数	3	38.9	41.4	43.6
	D データの活用	3	50.9	54.0	57.1
評価の観点	知識・技能	9	50.1	52.9	59.9
	思考・判断・表現	5	32.2	34.8	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	44.0	46.8	52.6
	短答式	5	55.0	57.8	65.7
	記述式	5	32.2	34.8	36.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%) 全国との差
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	
1	4・2を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア(イ)				○			○		27.9	33.9	52.2	14.4	13.1	11.5	-24.3	
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(1) ア(イ)				○			○		67.7	69.7	74.5	6.7	5.4	6.1	-6.8	
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している			2(2) ア(イ)		○			○		35.9	36.3	44.9	0.2	0.2	0.4	-9.0	
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(イ)		○			○		28.3	30.9	37.9	0.2	0.2	0.4	-9.6	
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している			1(2) ア(イ)		○			○		77.5	80.0	83.3	0.4	0.2	0.3	-5.8	
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア(イ)				○			○		66.9	70.0	73.8	6.1	5.1	6.0	-6.9	
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)				○			○		42.5	45.2	48.7	18.9	17.0	20.0	-6.2	
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)				○			○		30.8	35.3	37.6	24.1	20.8	26.2	-6.8	
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ(イ)		○			○		40.7	42.3	44.0	1.4	1.2	1.4	-3.3	
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2(1) ア(イ)		○			○		34.4	39.8	44.1	0.5	0.5	0.7	-9.7	
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(イ)		○			○		47.4	50.2	54.6	6.9	6.0	7.2	-7.2	
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)		○			○		41.1	43.2	38.4	19.4	16.9	24.4	2.7	
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2(2) ア(イ)		○			○		65.2	65.3	73.2	8.8	7.6	7.5	-8.0	
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2(2) イ(イ)		○			○		5.6	7.8	12.5	31.8	29.7	38.5	-6.9	

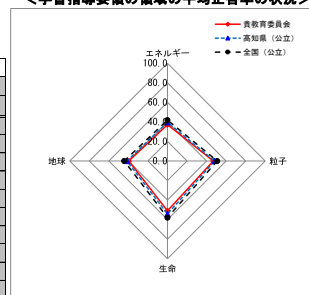
以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)
	全体	21	44.3	46.5	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	37.2	39.6	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	46.9	48.2	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	51.0	54.3	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	39.6	41.5	44.3
評価の観点	知識・技能	7	41.4	42.9	46.1
	思考・判断・表現	14	45.7	48.3	51.0
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	15	45.1	46.7	49.6
	短答式	1	21.1	22.4	24.8
	記述式	5	46.6	50.9	53.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			正答率(%) 全国との差	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域			貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)	貴教育委員会	高知県(公立)	全国(公立)		
1(1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)			○		○	46.0	44.6	44.2	0.2	0.1	0.1	1.8
1(2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を判断した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)			○		○	71.0	74.4	78.5	0.2	0.1	0.1	-7.5
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の緯度を空想的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるかどうかを問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	(4) (7)			○		○	46.3	49.9	54.2	0.3	0.2	0.2	-7.9
2(2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の变化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と気象観測データを用いて天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (4)					○	41.3	41.8	40.8	0.4	0.2	0.3	0.5
2(3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残りを科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った結果の考えについて、多角的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	(4) (4)			○		○	24.7	25.6	28.5	0.6	0.3	0.3	-3.8
3(1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4) (4)			○		○	76.5	77.6	80.1	0.2	0.1	0.1	-3.6
3(2)	水素を燃料として使うときの水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性から化学変化に関する水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	(4) (4)			○		○	57.2	58.3	60.2	0.4	0.3	0.3	-3.0
3(3)	水素を燃料として使うときの水の全体を軸かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うときの水の全体を軸かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (4)	(4) (4)				○	21.1	22.4	24.8	5.0	4.0	4.3	-3.7
4(1)	ダイオクソグロムシとダンゴムシのあしの様子から異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○		○	69.7	73.1	74.5	6.2	4.9	5.5	-4.8
4(2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の観察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を軸かせるが比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○		○	61.1	62.0	65.6	0.2	0.1	0.2	-4.5
5(1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)			○		○	10.8	10.9	15.3	0.2	0.1	0.2	-4.5
5(2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に知識されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)			○		○	35.8	40.2	45.0	0.5	0.3	0.4	-9.2
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)			○		○	38.7	44.9	43.3	26.8	22.9	29.4	-4.6
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能と判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (7)			○		○	43.2	45.0	48.0	0.3	0.2	0.3	-4.8
6(2)	陸上の日地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	(2) (4)			○		○	54.2	56.1	60.3	0.5	0.4	0.6	-6.1
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の傾がり方について、時間的・空間的な見方を軸かせるが、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (4)			○		○	28.1	30.9	34.2	0.9	0.6	0.7	-6.1
7(1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (7)			○		○	30.9	32.0	35.9	0.4	0.4	0.4	-5.0
7(2)	吸湿剤の乾燥機に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (7)			○		○	48.9	50.7	53.4	0.8	0.7	1.0	-4.5
8(1)	アリの行列による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	(3) (7)			○		○	45.3	50.3	55.2	13.2	10.1	11.6	-9.9
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件調節の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の調節などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	(3) (7)			○		○	44.5	50.6	55.1	16.4	13.2	14.9	-10.6
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリの比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)			○		○	34.6	35.7	39.2	1.5	1.2	1.4	-4.6

数学における取組の成果等の検証及び分析（課題とされた問題を経年で見た状況）①

8 愛理さんは、総合的な学習の時間に環境問題について調べています。調べたところ、世界が目指す持続可能な開発目標(SDGs)として、17の目標の中に「気候変動に具体的な対策を」という目標があることを知りました。

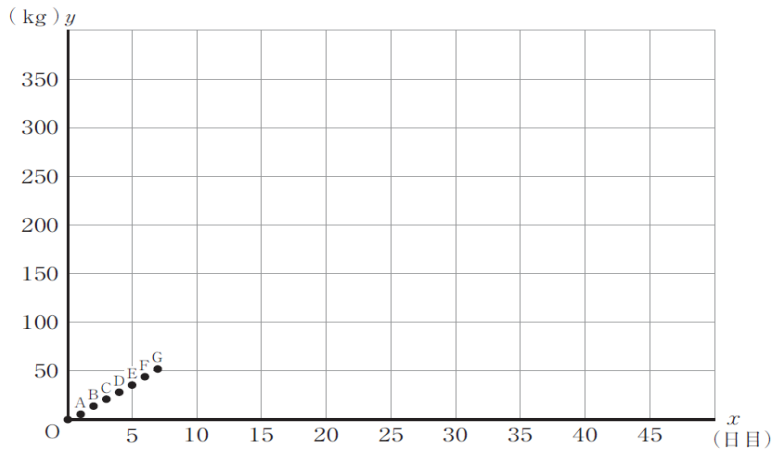
愛理さんの学級では、この目標に対してできることがないかを話し合い、二酸化炭素の削減に取り組むことにしました。取り組みの参考にするために、ほかの学校の取り組みを調べたところ、となり町の中学校のホームページを見つけました。

そこで、愛理さんの学級では生徒30人で、「二酸化炭素300kgの削減」を目標とすることにしました。この学級の目標を達成するために、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みと削減量について調べました。

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ



このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

記述式 方法・手順の説明

正答率 (%)

	H29年度	H30年度	H31年度	R3年度	R4年度
高知市	11.9	9.5	26.4	25.6	41.1
全国	18.4	13.2	34.7	27.7	38.4
全国との差	-6.5	-3.7	-8.3	-3.7	+2.7

となり町の中学校のホームページにあった情報

私たちの取り組みの成果

参加した生徒数 86人

取り組み期間 14日間

家庭での二酸化炭素削減量の合計 300kg

$\left(\frac{\text{二酸化炭素}}{300\text{kg}}\right) = \left(\frac{\text{移の本約20本が1年間に吸収する二酸化炭素の量}}{\text{ }}$

家庭でできる二酸化炭素削減の取り組み

取り組み	二酸化炭素削減量
冷房をつけている時間を1時間短くする。	25g
シャワーを浴びている時間を1分間短くする。	79g
部屋の電気をつけている時間を1時間短くする。	23g
テレビを見ている時間を1時間短くする。	23g
⋮	⋮

- 7 学級でコマ回し大会をします。この大会では、次の図のようなひもを引いて回すコマを使って一人1回コマを回し、最も長い時間コマを回した人を優勝とします。



大地さんと葉月さんは、コマAとコマBのうち、どちらのコマを使うかを検討することにしました。

- (1) 二人は、どちらのコマがより長い時間回りそうかを調べるために、2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間のデータを集めました。そして、それぞれのデータについてヒストグラムをつくり、それらを比較して考えることにしました。

図1 コマAが回った時間

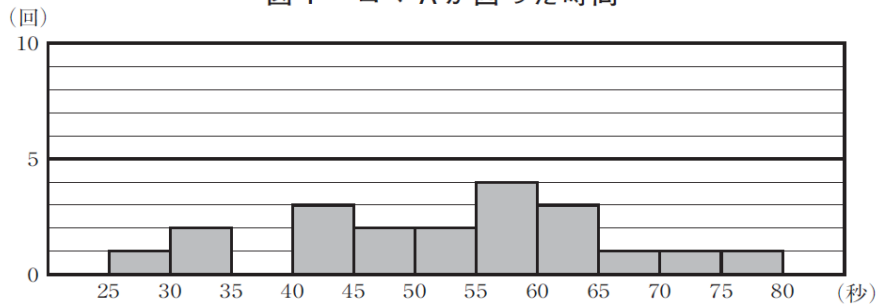


図2 コマBが回った時間

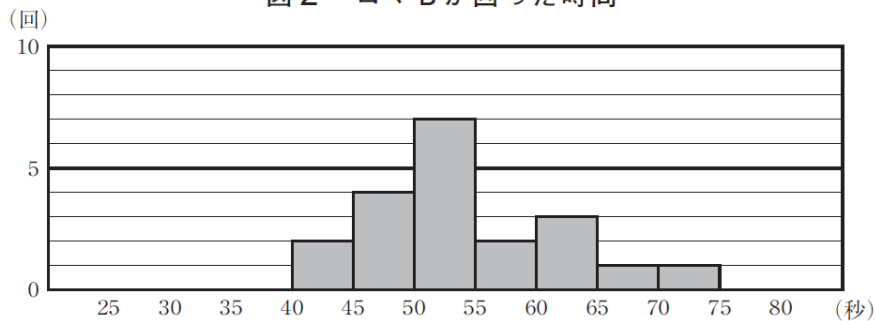


図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶとすると、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

記述式 理由の説明

正答率 (%)

	H24年度	H28年度	R3年度	R4年度
高知市	12.1	40.0	12.3	40.7
全国	47.1	47.6	11.1	44.0
全国との差	-35.0	-7.6	+1.2	-3.3

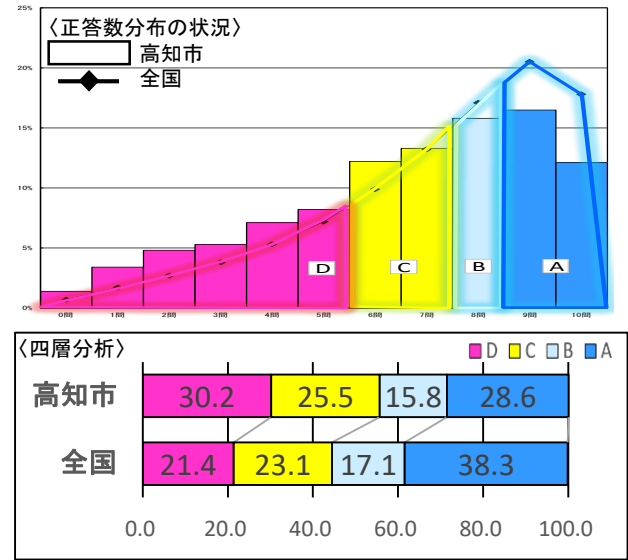
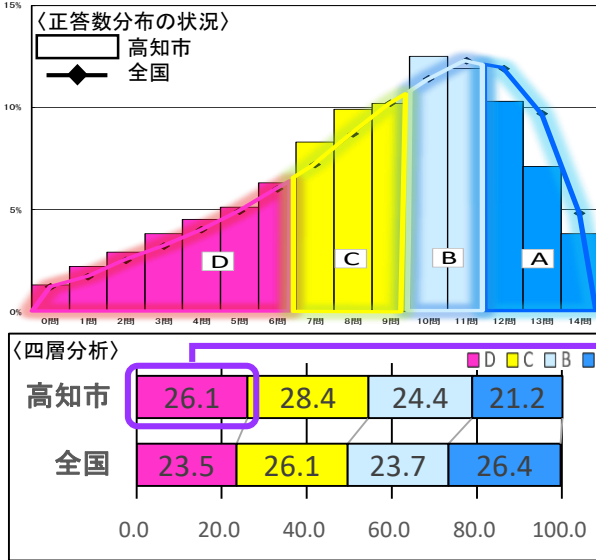
全国学力・学習状況調査 正答数分布の状況と四層分析の経年での比較(高知市と全国)【%】

※四層分析・・・文部科学省が四層に区分したものに高知市の状況を当てはめたもの。(A～D)

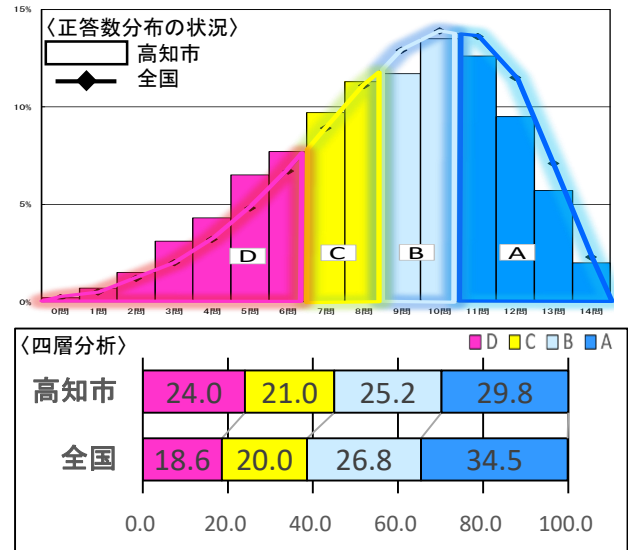
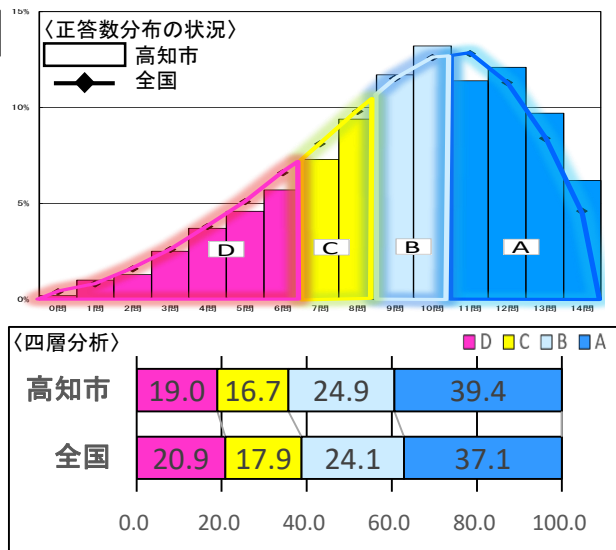
小学校国語

中学校国語

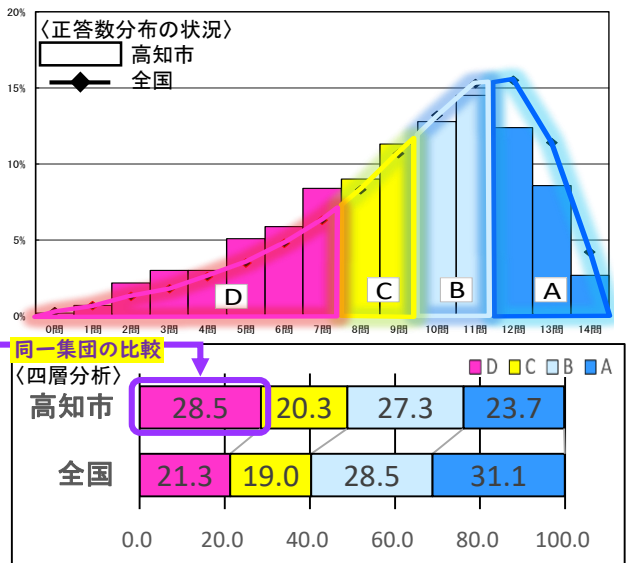
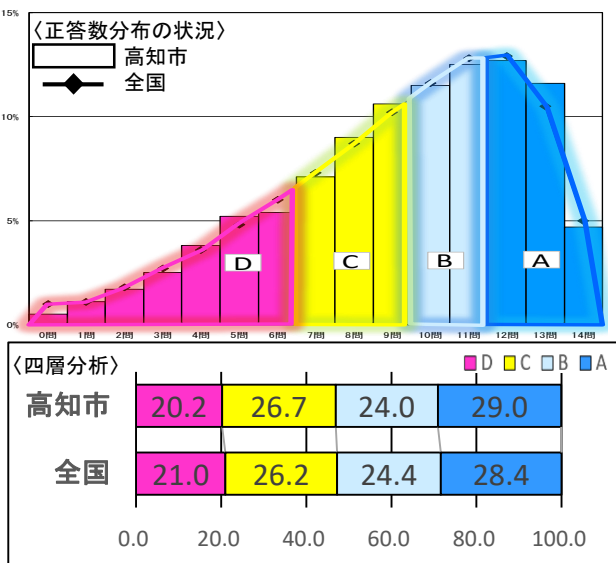
H31



R3



R4

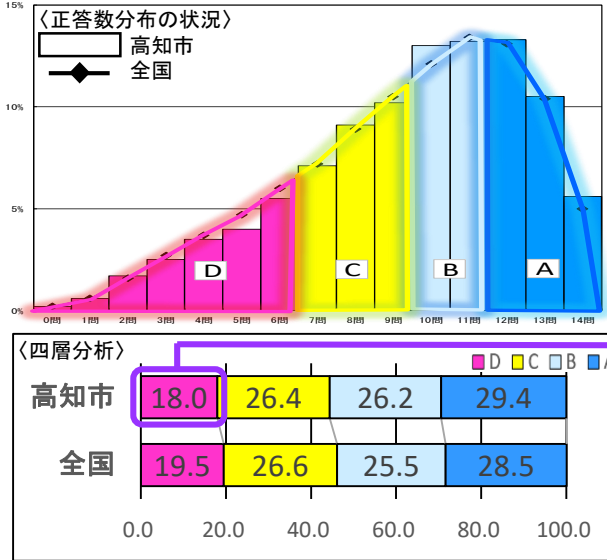


全国学力・学習状況調査 正答数分布の状況と四層分析の経年での比較(高知市と全国)【%】

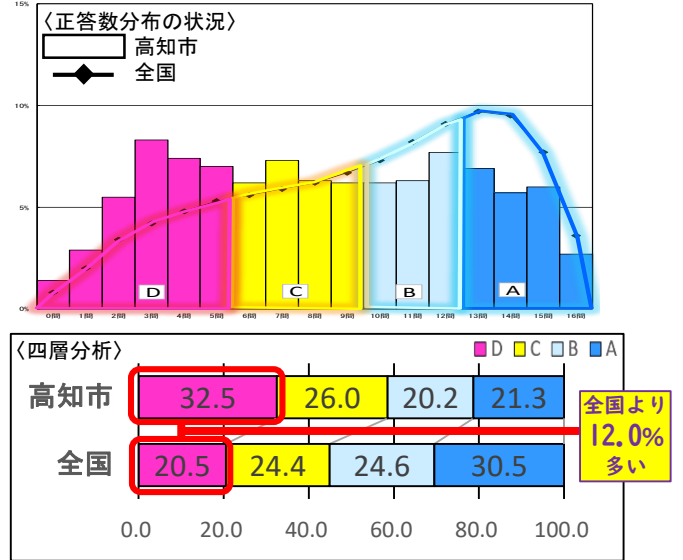
※四層分析・・・文部科学省が四層に区分したものに高知市の状況を当てはめたもの。(A～D)

小学校算数

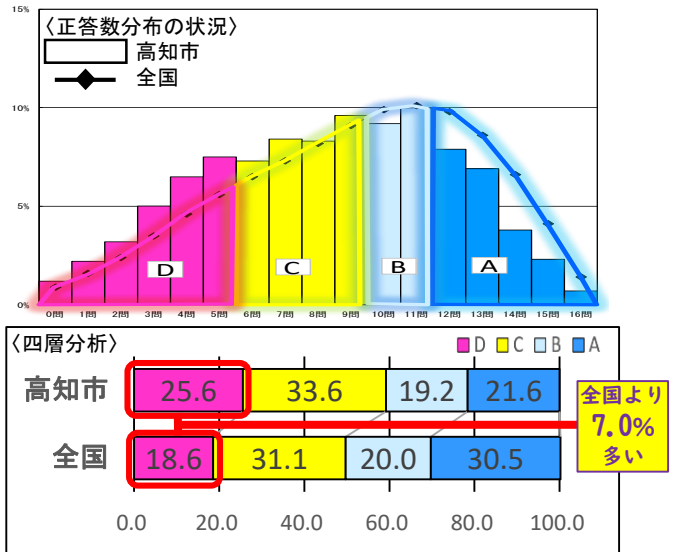
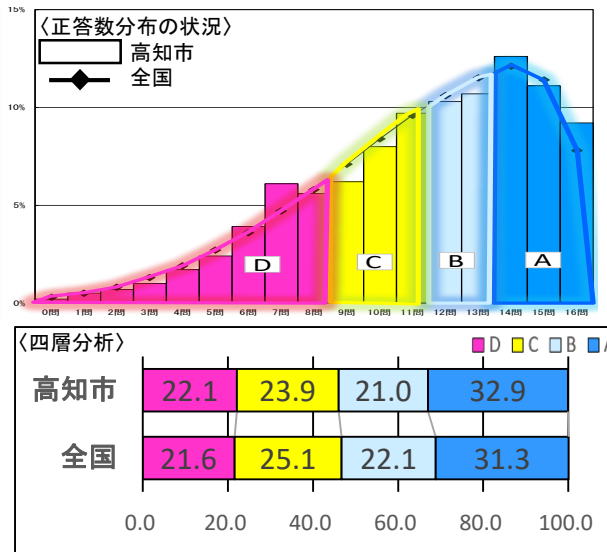
H31



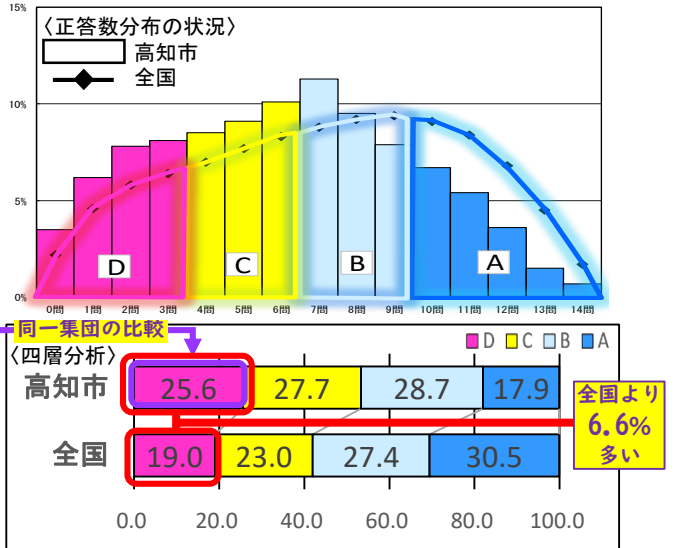
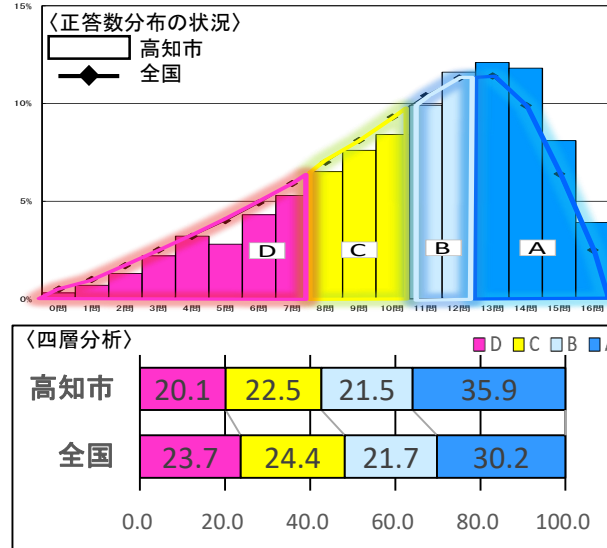
中学校数学



R3

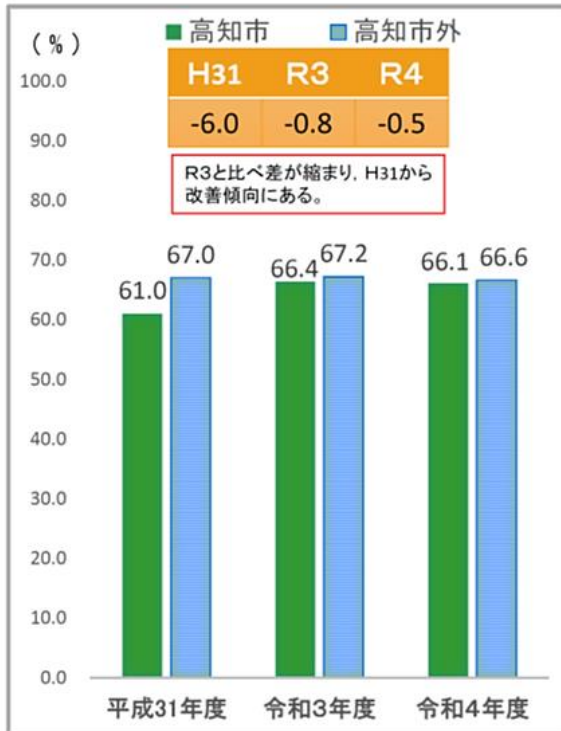


R4

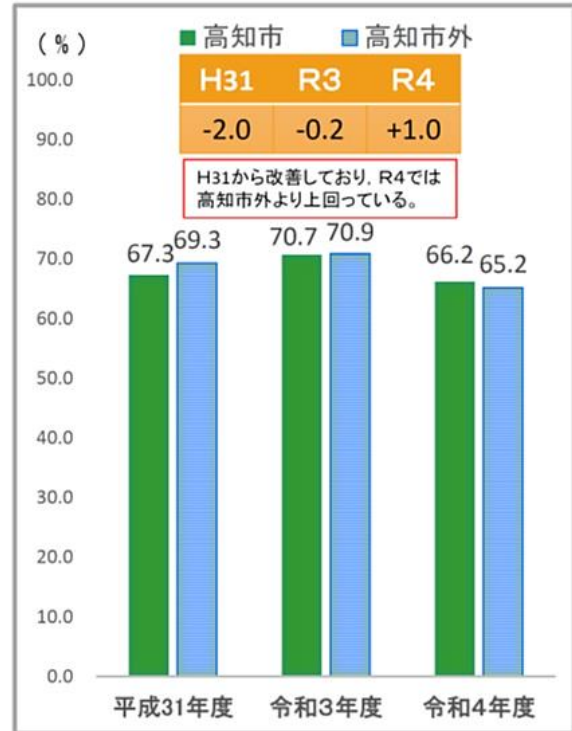


全国学力・学習状況調査結果～高知市と高知市外との正答率の差～（小学校）

【国語】

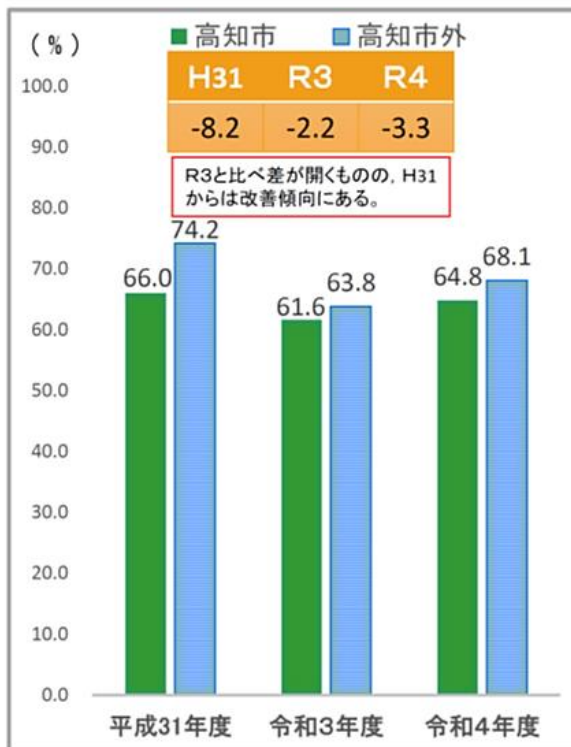


【算数】

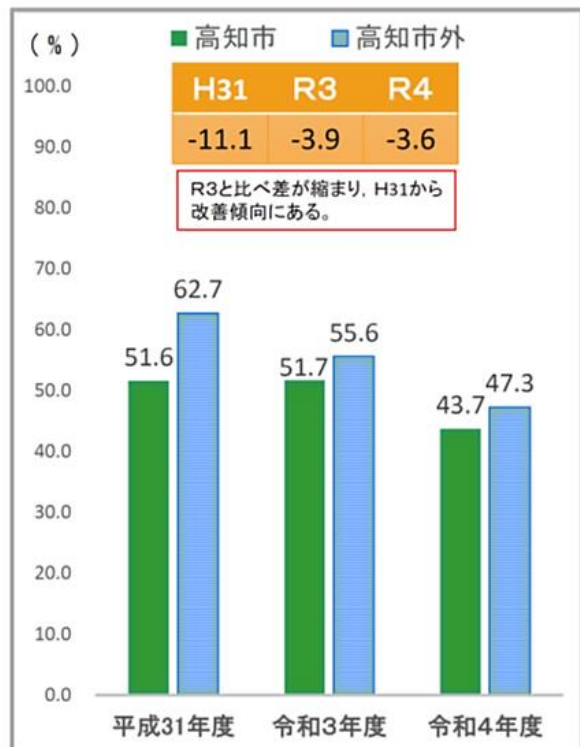


全国学力・学習状況調査結果～高知市と高知市外との正答率の差～（中学校）

【国語】



【数学】



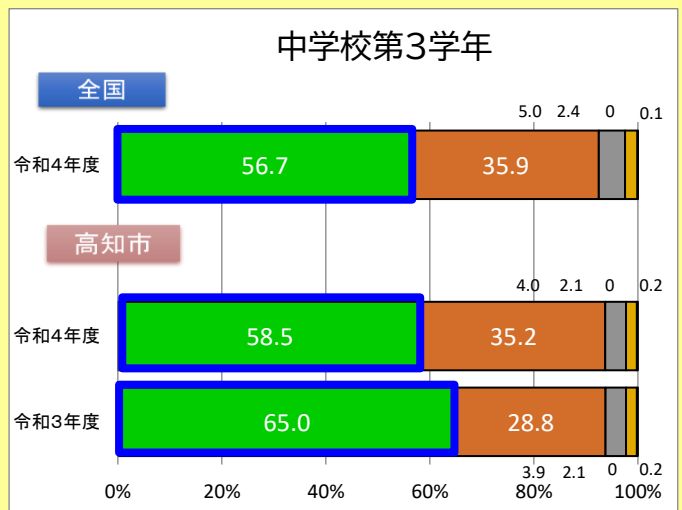
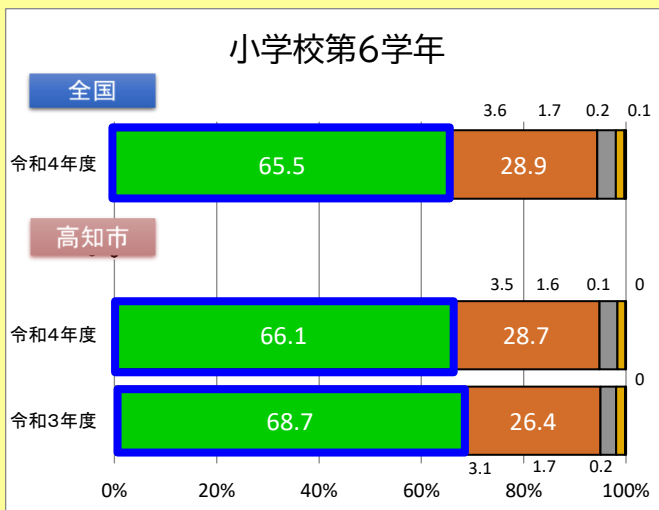
児童生徒質問紙

【36】 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

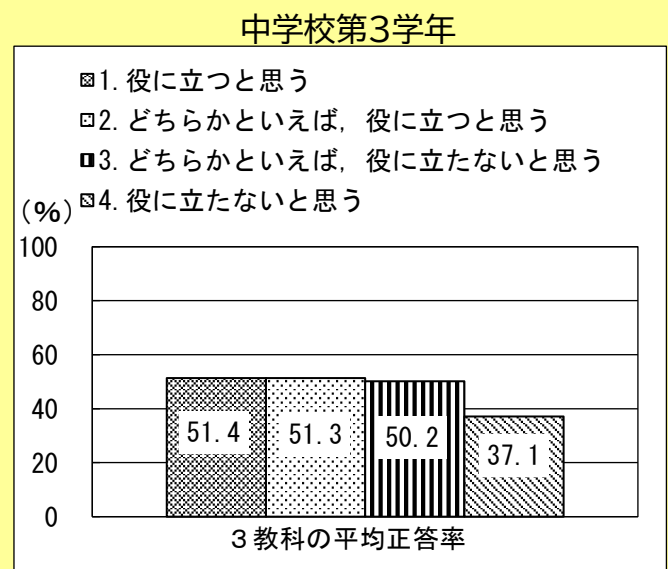
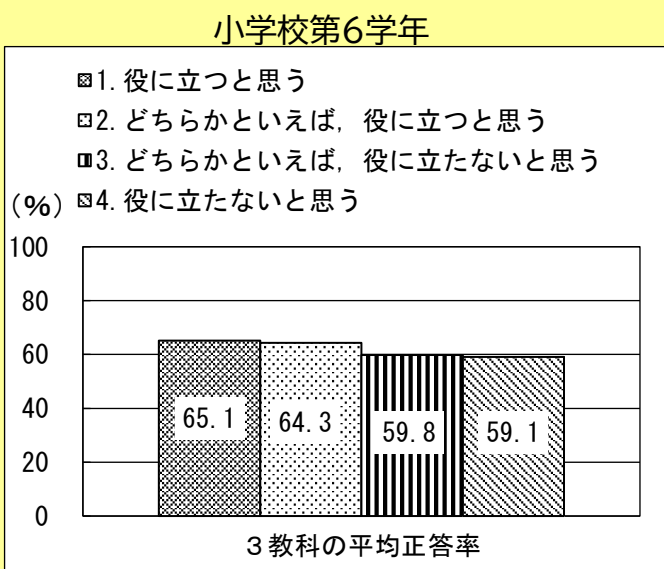
- 「役に立つと思う」強い肯定群の割合は、全国と比較すると、小学生では0.6ポイント上回っており、中学生では1.8ポイント上回っている。本市の令和3年度と比較すると、小学生では2.6ポイント、中学生では6.5ポイント減少している。

高知市(経年)

- 役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立たないと思う
- 役に立たないと思う
- その他
- 無回答



質問紙調査と平均正答率との関連

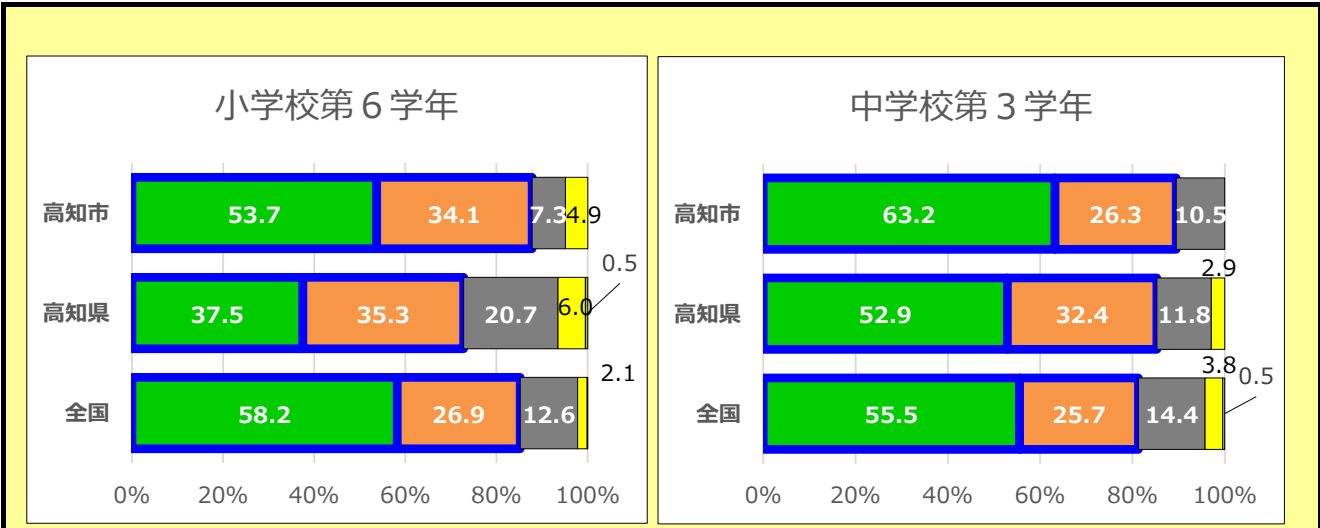


ICT機器を使うことが勉強の役に立つと思っている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向があります。

学校質問紙

【59・57】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

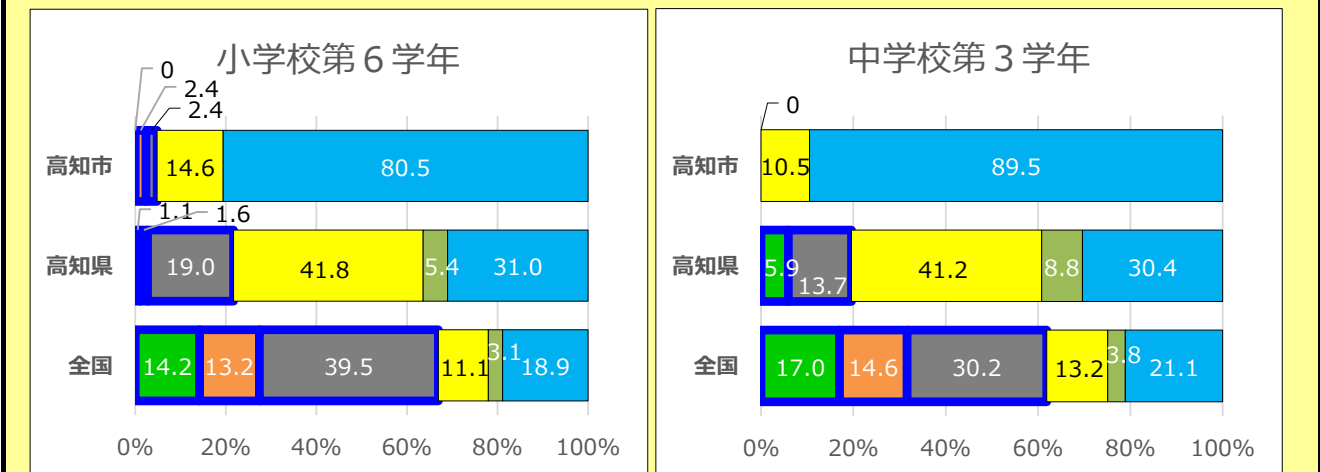
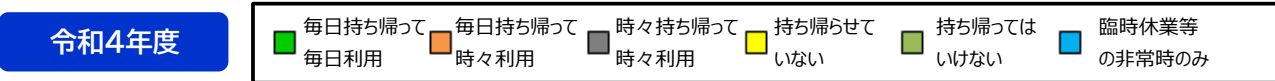
・ 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用する割合は、小学生では全国より2.7ポイント上回っており、中学生では8.3ポイント上回っている。



学校質問紙

【66・64】 児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

・ 高知市では、家庭への端末の持ち帰りが進んでおらず、高知県や全国との大きな隔たりが生じている。



タブレットなどの端末は授業での活用が進んでいますが、家庭への持ち帰りについては、現在、取組を進めているところです。

令和 4 年度高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

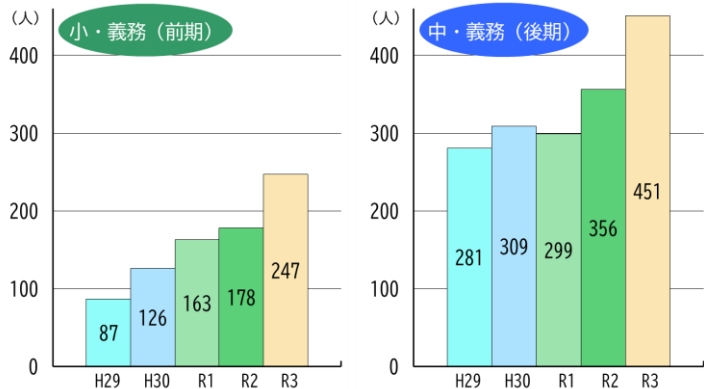
不登校対策について

高知市の現状と取組について

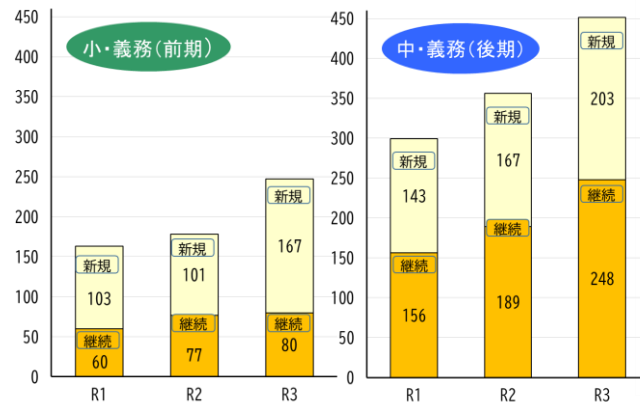
高知市教育研究所
令和 4 年 8 月 31 日 (水)

高知市における不登校の現状

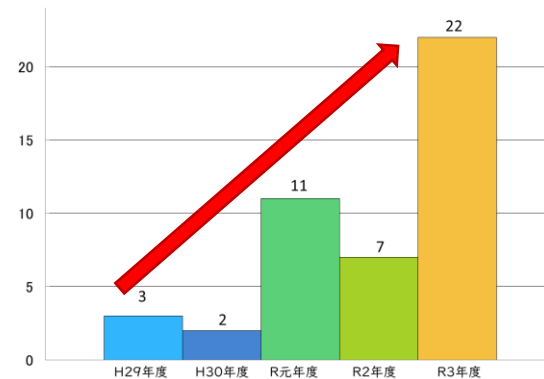
過去5年間における不登校の推移



過去3年間における不登校の新規と継続の比較

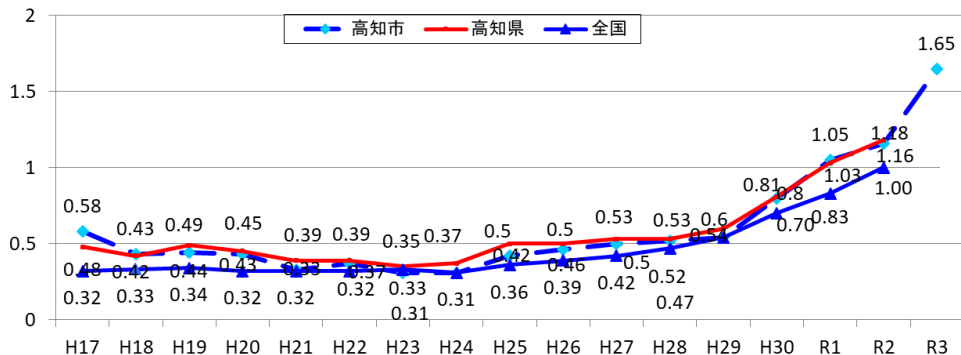


過去5年間における小1の不登校の推移

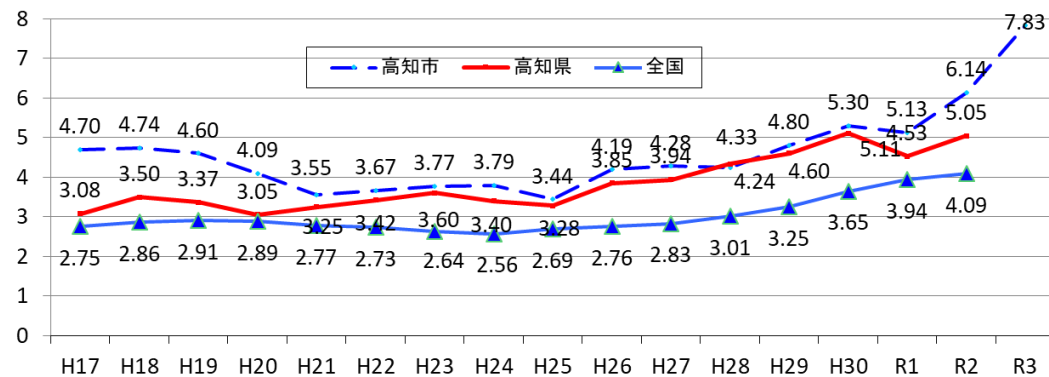


不登校出現率の推移（H17～R3）

小・義務（前期）



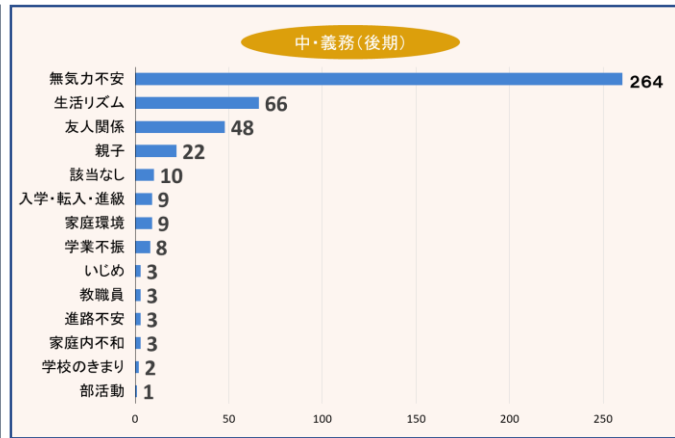
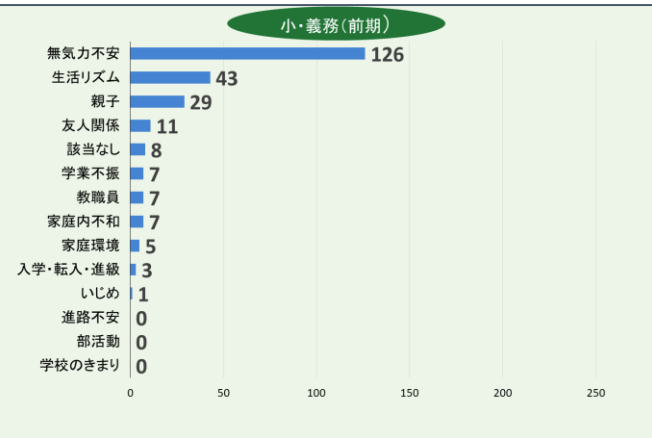
中・義務（後期）



※ 不登校出現率：在籍児童生徒数のうち不登校を理由とした長期欠席者数の割合を示したもの

高知市における不登校の現状

「R3年度高知市欠席児童生徒の調査」から見た不登校の要因



※「不登校の要因」については、主たるものを一つ選択

「R3年度高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査」から見た好転率

	3月末現在、継続し 登校できるようになった
小・義務(前期)	20.2%
中・義務(後期)	26.8%

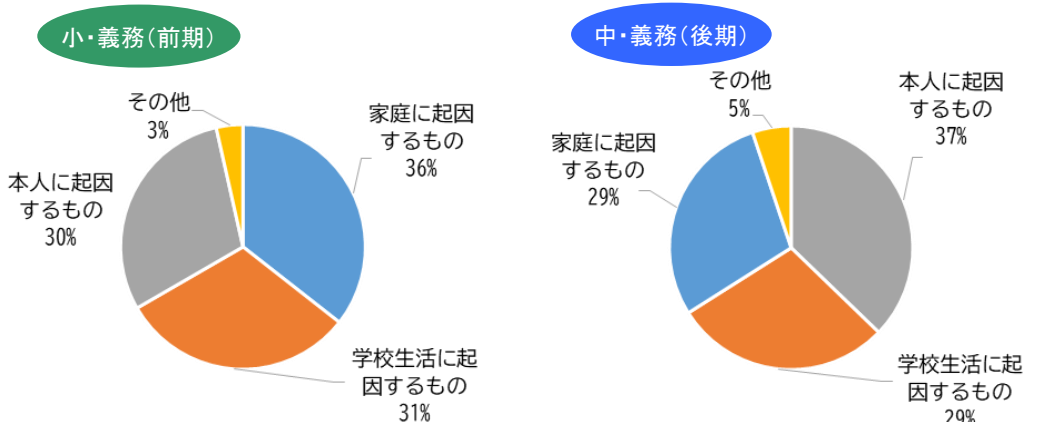
復帰率について

文部科学省の基準をもとに、教育支援センターでは、復帰について以下の基準を定めている。

- ・毎日登校できるようになった。
- ・週の半分以上登校できるようになった。
- ・別室登校ができるようになった。
- ・時間外登校ができるようになった。
- ・中学3年生が進学・就職することができた。

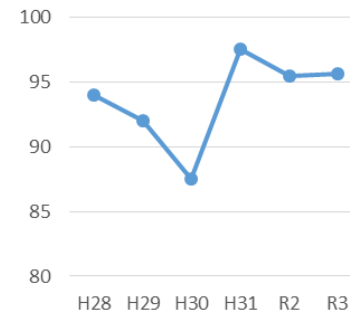
R3年度に教育支援センターで相談受理したケースの背景及び進学率・復帰率

背景

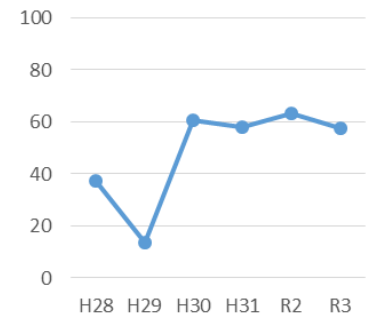


※ 相談受理件数 180件 (小: 67件, 中: 113件)

進学率 (含就職進学)



復帰率



進学率 (含就職進学) → 95.7%
中3生70人(進学66人, 就職1人, 未定3人)

学校復帰率 → 57.7%
小・中学生支援数182人中105人(高校へ進学した中3生を含む)

① 毎月の欠席調査における新規児童生徒への状況調査

- ・ 毎月実施している10日以上欠席調査から新規の児童生徒を抽出し、指導主事等が全ての学校へ聞き取りを行い、状況を把握したうえで、支援の方針や具体的な方法について助言を行う。

② 小学校への訪問・協議

- ・ 夏季休業期間中を中心に定例会に参加できていない全ての小学校を、教育相談班・教育支援センター指導主事等が訪問し、新規不登校を出さないための取組について協議する。

③ 高知市教育委員会内における横断的な連携

- ・ 学校教育課就学前教育班，教育研究所教職員研修班，特別支援教育班，人権・こども支援課，補導センターと連携し，小学校低学年への支援策について協議する。

④ 校内型適応指導教室の取組

- ・ 高知市校内型適応指導教室研究実践モデル校として令和2年度から城北中学校を，高知県不登校支援推進プロジェクト事業として令和3年度から城東中学校，令和4年度から南海中学校を指定する。担当の教員を1名配置し，不登校生徒の学習活動の場の保障や組織的な支援の充実を図り，成果を発信する。

⑤ 「ほんの少し変えるだけでうまくいく」実践事例集

- ・ 初任者・2年経験者・3年経験者の教員を対象に，令和3年12月に刊行した「ほんの少し変えるだけでうまくいく」を活用した実践事例を集め，冊子として発行する。

⑥ 楽しい学級・学校づくりのために リーフレット「ラポール」の発行

- ・ 「魅力ある学校づくり」の取組を支援するために，学級経営や不登校の未然防止などの効果的な取組や事例等を紹介し，高知市内全教職員に配付する。

校内型適応指導教室の取組

高知県 不登校支援推進プロジェクト事業指定校の取組

校内適応指導教室を設置し、教室運営や教育相談に係る担当分掌である校内適応指導教室コーディネーターを位置付ける。

R3年度から2年間の指定 城東中学校

城東中学校「タンポポルーム」

個別最適な学びを支援する空間

小集団での学習や活動と個別学習のどちらもが可能な空間を設置。共有スペースでは、給食を食べたりお菓子を作るなどの体験学習を行う。



全教員で学びを保障

毎時間時間割を編成し、授業を行うことができるように教員を配置し、子どもの状況に合わせた授業を行っている。

子どもの変容 (3年生男子 Aさん)

小学校5年生から登校をいやがり、学校では一切声を出さなかった。2年生進級時の4月27日から校内適応指導教室利用。1年をかけて少しずつ、制服に着替えることができるようになり、一人で弁当持参で登校できるようになり、2月の立志式では決意表明ができるようになった。4月27日以降3学期終了まで欠席はなかった。

高知県 校内型適応指導教室研究実践モデル校の取組

城北中学校「サポーター室」

令和2年度より校内型適応指導教室実践モデル校として城北中学校を指定し、専任の教員を1名配置する。

- 令和2年度からの研究実践の成果と課題を明確にし、成果を「不登校児童生徒の居場所づくり」を検討している学校へ広く発信する。
→ モデル校以外での設置を目指す:「不登校支援ハンドブック」の活用
- 教育支援センターと連携しながら調査・研究する。
- 県教委の「不登校支援推進プロジェクト事業」の配置校と情報共有する

タブレット端末の活用

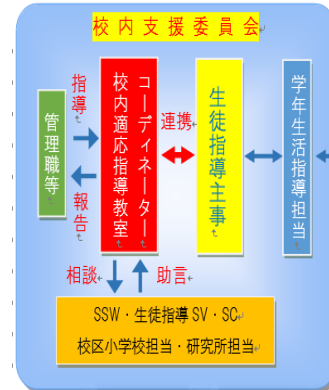
授業の同時配信やGoogleでの調べ学習・タブレットドリル・「高知家まなびばこ」などを活用して学習に取り組んでいる。

授業の同時配信では、子どもたちは受けたい授業を自分で選んでサポーター室で受けることができる。



R4年度から2年間の指定 南海中学校

南海中学校「あったか教室」



校区での連携

校区内の長浜小学校にある適応指導教室とも連携するため、それぞれの校内支援会に各校の不登校担当教員が参加しています。弟妹の状況把握や小中の取組について情報交換を行い、日常的な小中連携の場となっている。

コーディネーターからの情報発信

校内適応指導教室コーディネーターが教育研究所の研究者となり、全教職員が生徒理解を深めるための情報発信の仕方について研究開始。



子どもの声

(R3年度生徒のアンケート結果・サポーター室があってよかった点)

- ・学校に来やすくなった。ここがなかったら多分来てない。
- ・勉強が追いついていないまま教室に入るのがしんどいけど、サポーター室は自分のペースで勉強できる。

校内組織・「心の居場所づくり部」

全ての教職員が関わることで、子どもが成長する環境をつくっていくことができるという考え方で運営。受け入れに関しても部で検討して決定している。